

森田 太初
MORITA taisho

stage.4

「二元論的な宇宙観」

…僕はですね、この世の中の物事は対極する二つの事で大体が成り立っていると思っ
ているんですね。
光と影だったり表と裏だつたり、有と無だつたり。
ただ、始まりから終わりに向かう行程で「その途中」ってのもあるのは無視出来ない事なんですよね。

要するに、そういったよくワカラナイ部分があるから、人生って面白いんだろうなあなんて思っています。

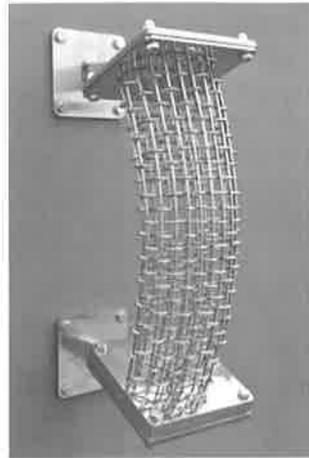


萩原 陵
HAGIWARA ryo

stage.5

「knitted」

一連の接続した輪でステンレスを絡み合わせる。
そのチューブは虚像に映り込み円となる。
バラバラであり、繋がってもいる。



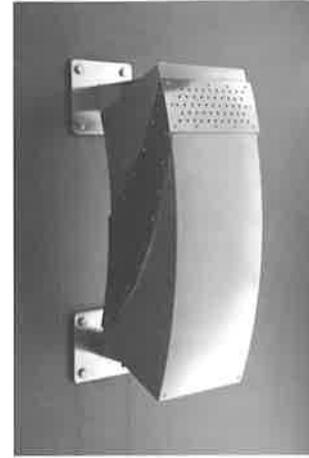
原 雅俊
HARA masatoshi

stage.6

「通気孔」

想いは風のようなもの

なのかも。



橋本 野生
HASHIMOTO nov

stage.7

「線と線と線」

単純に入り組んだ境界と隙間に閉ざされた距離は堆積して生える



池田 仁
IKEDA hitoshi

stage.5

「Memory Code」

私は『存在と記憶・時間と蓄積』を主題に制作をしています。社会も人間も常に流動的に起こり発生し、その一つ一つの背景に、蓄積された過去が存在します。

私が能動的に発生させた純然たる現象の堆積物は、私が世界に在るという確証であり、一粒の人間粒が否応なく対峙せざるをえない世界を表現し、その内にある潜在的母型意識への言及となります。

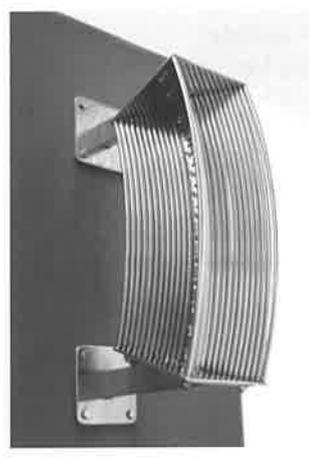


角田 優
KADOTA yu

stage.6

「Power Pitch Pipes」

楽器は様々な力を音に変換する。叩く、弾く、吹く。
日常には様々な音があり、それらも同様にあるエネルギーが音に変換される。また、音もひとつのエネルギー。
Power Pitch Pipeは、そこに吹く風エネルギーを音エネルギーとしてそこに風がある事を見せます。



佐々木 速人
SASAKI hayato

stage.6

「前後の光」

自分の視点とは関係なく放たれ続ける光

通り過ぎた光とこれから来る光

自分の位置を確認しながら目を向けてみる

どのように在るのか



新木 大使
ARAKI taishi

stage.7

「Ambiguous」

歩いている人がいて彼はスーツを着ていて携帯電話で話をしている。忙しい彼も

空から見れば街の賑わい

